

私 の 工 夫

やってみよう！もつとやり
たい！と夢中になって遊ぶ
幼児をめざして

玉野市立田井幼稚園

主任 八反田 幸子



1 はじめに

幼児にとって直接体験の場や、多様な人間関係を学ぶ機会の減少が生じている中で施行された新幼稚園教育要領では、幼稚園教育で『資質・能力を育むこと』や『主体的・対話的で深い学びの実現』が重要視されることとなった。

本園の幼児は、明るく素直で好奇心旺盛な反面、困ったときに大人に頼ることが多く、指示されないと動けない姿が見られていた。

このような背景から、幼児が身近な環境に関わり、心動かしながら夢中になって遊ぶ体験を重ねることが大切だと考えた。また教師が幼児の興味や関心・思い、遊びの中での学びなどを読み取り、幼児が主体的に遊ぶように環境構成や援助を行う必要があると考えた。

2 研究の内容

◎ 研究主題とめざす幼児像

夢中になって遊ぶ幼児とは、身近な環境に興味や関心をもって「やってみよう」と取り組み、遊んでいくうちに「もつとやりたい」と思い、自ら人・物・事象に関わっていく。そして、自分の思いや願いをもって意欲的に遊びを進めていく姿と捉え、めざす幼児像を、『興味や関心から自ら環境に関わり、思いや願いをもって楽しんで遊ぶ子ども』と設定した。

◎ 研究の仮説

『幼児は身近な環境に興味や関心をもって関わり、心動かされる体験を通して充実感を味わい、夢中

になって遊ぶことで、学びの芽を育んでいくのではないだろうか』と仮説を立てた。

心動かされる体験とは、楽しい・悲しいなど、様々な情動や心情がわいてくる体験である。学びの芽とは、様々な体験の中で、思考力や認知力、意欲などを育み、小学校教育の学びへとつながっていくものの、すなわち幼稚園教育において育みたい資質・能力である。

◎ 実践にあたっての着目点

(1) 『①主体的に学ぶ姿』『②対話的に学ぶ姿』『③深く学ぶ姿』(3つの学ぶ姿)について共通理解を図る。(※学びの過程イメージ参考)そして、3つの学ぶ姿をより具体化し(図)、その視点から幼児の姿を読み取る。

(2) 3つの学ぶ姿を捉え、夢中になって遊ぶための環境構成や援助を探り、検証する。

※平成28年3月30日文科科学省教育課程部会幼児教育部会(第6回)資料8

◎ 実践にあたっての工夫

● 幼児の興味や関心・思いを読み取り、環境の再構成をする。



ピロティーから保育室へ遊びの場を変更。

9月、3歳児がピロティーで病院ごっこを始めた。教師は、幼児の興味や関心・思いを読み取りながら必要なものを一緒に準備した。また、①の視点から、幼児達が伸び伸びと遊べるよう保育室へ場を移し、2学期末までこの遊びを楽しんだ。もうこの遊びは終了だと思った教師は、用具を隅の方へ片付けた。しかし3学期初め、隅の方から自分達で用具を出し遊び始めた。①の視点から考えると、教



どうすれば動くか、考え試している様子。

●**幼児の興味や関心・思いを読み取り、具体的な援助を考える。**
家族で行った経験に基づき、5歳児が水族館作りを始めた。ジンベエザメを作りたい幼児達は段ボールに絵をかき、「動かせたい!」という思いをもつようになった。どうすれば動くかを考える幼児達

師は幼児の「もつとやりたい!」という思いを捉えられてなかったと反省した。その後、いつでも出せる場所に、皆で用具を片付けた。幼児が遊びたいときに自ら楽しめる環境を保障する大切さを痛感した。その後、この遊びは進級後も自分達の遊びとして続いた。



自分達で考えた方法で動かすことに成功。

②の視点から、教師は皆で考え試せる時間を確保した。教師も様々な方法を提案したが、幼児にはイメージがでにくく、教師の提案を受け入れなかった。教師の思いが先行したことを反省した。教師の助言は時に幼児の思いとずれてしまうことがあるが、再度思いを読み取り具体的な援助を考える必要性を感じた。その後教師は幼児の思いに寄り添い、皆で試したり協力したりする姿を見守り、共感した。試行錯誤の結果、動かすことに成功し、幼児達は大きな喜びや満足感を味わうことができた。

(図) 3つの学ぶ姿の図

① 主体的に学ぶ姿

- ・積極的に環境に働き掛けている姿
- ・見通しをもって粘り強く取り組んでいる姿
- ・遊びを振り返って次につなごうとする姿

興味や関心から自ら環境に関わり、 思いや願いをもって楽しんで遊ぶ子ども

② 対話的に学ぶ姿

- ・他者との関わりを求める姿
- ・自分の思いや考えを表現する姿
- ・伝え合ったり考えを出し合ったり協力したりする姿

③ 深く学ぶ姿

- ・直接的、具体的な体験の中で、対象と関わって心を動かす姿
- ・幼児なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返す姿
- ・楽しさや不思議さなどの追求や問題解決に向けて探究する姿

3 おわりに

教師が環境構成や再構成、具体的な援助を行うことで、めざす幼児像に近づくこと、また、援助を行う際には、幼児の育ちと主体性のバランスを考えることが大切であることが分かった。そして、楽

しさや面白さを追求すること、試行錯誤すること、自信や意欲をもつことなどの学びの芽は、幼児が夢中になって遊ぶ中で育まれることが明らかにになった。
今後、幼児の思いや学びを大切にしながら環境の再構成や具体的な援助を行っていきたい。